

No.1880

9月1日例会 プログラム 「造船の世界」 白石 富喜太君

9月8日例会 プログラム 「新世代のための月間に因んで」 委員長 三谷 尚三

9月1日のメニュー ・海老のチリソース ・若鶏のから揚げ ・中華チマキ&シューマイ ・鶏胸肉のカシューナッツ炒め ・ミニ冷麺 ・コーヒー

前回（8月25日）例会記録

出席報告	会員総数	39名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	28名	欠席者数	9名	出席率	75.68%	前回補正率	78.38%
	前回補正者	大久保君								
	欠席者	藤原君 花岡君 林君 井上君 松王君 中山君 大久保君 富永君 山田(次)君								

会長挨拶

こんにちは。例会出席ありがとうございます。暑さも、気持ち少し過ごしやすくなったような気がします。10月28、29日の米子での地区大会の登録が、玉野クラブは22名の登録ありがとうございます。岡山南クラブの150名登録は特別として、あるクラブは10名前後の登録しかなく、ガバナー補佐よりもう少し頑張って登録を多くしなさいとの話があったそうです。各クラブ60%の登録がないと大会運営が厳しくなるそうです。本日の卓話は2名の方のイニシエーションスピーチと聞いています。大変楽しみにしておりますので、よろしくお願いたします。以上会長挨拶といたします。お食事をどうぞ。

会長報告

- 先週の理事役員会において、40周年記念事業実行委員長に藤田さんが選ばれました。実行委員は藤田さんより声が掛かると思いますので、進んで協力をお願いします。

幹事報告

- (社)岡山県聴覚障害者福祉協会玉野支部より8月5日玉野まつりとバザーの写真に対するお礼状が届いております。
- 8月23日(水)県南18RC幹事会が開催され、出席しました。岡山旭川RCより玉野RCに対し、11月の例会(水)に卓話の依頼がありました。
- 福森国雄会員より米山功労者の寄付申込を頂きました。
- 他クラブの週報・例会変更通知は回覧いたします。

委員会報告

- 親睦・家族委員会(高橋(秀)委員長)：観月家族例会の案内9/22(金)19:00～瀬戸大橋カントリークラブにて。送迎バスを準備しますので、ご家族奮ってご参加願います。

スマイル・ボックス

- 小野田君 - 兵庫県の「のじぎく国体」より競技会役員の委嘱状が届きました。
- 難波君 - 玉野月例杯優勝。(前回スマイルに追加)
- 東川君 - 入会月。

プログラム 「イニシエーションスピーチ」

石川 勝幸君

今回が最初ということで、何を話せば良いのですかとお聞きしたところ、自己紹介でいいとの事でしたので、生い立ちから現在に至るまでを、簡単にお話させていただきます。

生れは、東京都赤羽3丁目で、ちゃきちゃきの江戸っ子です。小さい時に、毎年出初式でおじいさんが、はしごに登っていたのを覚えています。僕は、小さい頃から活発で、よく危険なことをして怒られておりました。多分、おじいさんの血筋です。小学校4年生ごろからだんだん素行が悪くなり、よく母親に迷惑をかけました。はっきり言って、世間で言う不良というやつです。今の真面目な自分が信じられません。

父の仕事は、空調屋で、NTT(昔の電電公社)の北九州、大阪、栃木、厚木研究所など日本各地の大きなビルにたずさわり、完成写真をパネルにして家に飾っては、僕に自慢しておりました。そんな父は、朝、僕が起きると、もう仕事に

出ておらず、夜中 12 時ごろにならないと帰ってこない人でした。ある夜、夜中の 2 時頃、確か僕が高校 2 年生位の時、両親の寝ている部屋に入ると、父が枕もとの小さな電気で勉強している姿を見て、その次の日、何の勉強をしていたのか聞くと、「まだまだいろいろな免許を取りたいから勉強していたんだ」と聞き、ろくに勉強していなかった僕は感動したのを今でも覚えています。それを見ても、その時は遊んでばかりでしたが。

そんな僕も大人になり、勉強嫌いのため、大学受験をあきらめ、「頭で駄目なら手に職だ」と思い、19 歳でこの調理という業界に飛び込みました。最初は神田の本当に小さなレストランから始まり、その規模はだんだん大きくなっていきました。なぜか、一生懸命仕事だけはしました。勿論、遊びも一生懸命でしたが。今思えば、あの頃の、父の後姿のおかげだと、今になって感謝しております。

人生は本当にどうなるか解らないものです。英語が大嫌い、何で日本人が英語をしゃべらなければいけないのかと、馬鹿なことを言っていた不良が（大学は英語で落ちたと思っております）、そんな僕がアメリカに行く羽目になって、まして英語でアメリカ人を使ってくるなんて、僕の若い頃、一緒にいた誰かが想像したでしょう。

だから今、僕はホテルの従業員たちに言っています。決してネガティブに考えるなど、ポジティブに考えれば必ず何かが変わると。思ってもなかったことも起こる筈です。そして大切なのは自分に素直であること。人にうそをつかないこと。何でもいから、今自分に出来ることを精一杯やって欲しい。そして一番大切なのは、出会いを大切にすること。皆さんとこうして出会えたことを決して無駄にしないよう頑張ります。年上の人達から学ぶべきものは、まだまだたくさんあると思います。これからもよろしく願いいたします。ありがとうございました。

仲田 正幸君

ごみ焼却施設、下水道工事、防衛施設庁関係工事、汚泥処理施設など、談合に係わる報道は後を絶たず、ここ数年、入札談合を取り締まる当局の動きは活発で、本気で世の中を変えようとしているのだと感じます。経団連の奥田前会長は「談合は日本の文化みたいなものだから根絶するのは難しい」と言って物議を呼びましたが、ゼネコンはじめ各企業はコンプライアンスの徹底を謳って、今度こそ談合との決別に本気で取り組んでいるように見えます。こうした背景には、経済のグローバル化、実際にはアメリカ化と言った方が適切とも思える市場原理主義への偏重があると思われます。市場原理主義に基づいて自由に競争させれば「神の見えざる手」によって調整され、社会全体として豊かになるとの考えです。その結果として、強い者と弱い者、優秀な者と凡庸な者、悪知恵の働く者とそうでない者、運の強い者とそうでない者で大きく格差がつくのはやむを得ないこととされます。弱者切り捨てとの批判を受けるところです。・・・(中略)・・・年功序列、終身雇用という長年の日本的雇用形態も壊れつつあります。大規模小売店の進出で昔ながらの商店街は瀕死の状態です。日本の文化と言われる談合もその一つであると思います。アメリカ的な弱肉強食の自由競争社会へ向かって舵は大きく切られています。市場原理に基づく資本主義社会では自由競争環境が担保されなければならないとされています。今日のように経済活動に国境がないボーダレスの時代には、国内だけの保護された環境下に置かれた企業は、生産性向上や技術革新努力を怠り競争力を失う。互いに切磋琢磨して競争する事により企業は磨かれ、生産性が向上し、技術革新も生れる。そしてそれが消費者への利益をもたらす。この競争に負けた企業は市場から去り、労働者は競争力のある他の産業へと移動する。こうして産業構造は絶えず世界的規模で変貌を続けていく。その過程で生ずる「ひずみ」・勝者と敗者の格差拡大は避けられないものとして許容する。今の日本はこんな国の形を目指しているのだと思われます。

理屈っぽいことを申し上げましたが、いったい何が言いたいのかと疑問に思われているかもしれません。談合を擁護しているように聞こえるかもしれませんが、そうではありません。擁護はしませんが、一方では今の日本が好ましい方向に向かっていくとの確信も持てないのです。

そんな思いを持っていたところ、ある本に出会いました。藤原正彦の「国家の品格」という本です。この本に出会って我が意を得たりという思いでした。彼は自由な競争ほど卑怯なものはないとまで言っています。6 年生と 1 年生が自由に競争すれば 6 年生が勝つに決まっている。それもただ勝つのではなく完膚なきまでに叩きのめしてしまう。ウィナー・テイク・オールです。平等とは結果の平等ではなく機会の平等であり、1 年生にも平等に機会を与えたのであるからそれでいいというのが市場原理主義です。ここで筆者は武士道精神を持ち出します。武士道では大きい者が小さい者をやっつけたり、強い者が弱い者をやっつけることは卑怯とされます。「国家の品格」を引用します。「グローバリズムの中心的イデオロギーである市場経済は社会を少数の勝ち組みと大多数の負け組みにはっきり分ける仕組みなのです。・・・このおかげで失業者と中高年の自殺が急増し、社会には殺伐とした雰囲気立ち込めています。金銭至上主義が主流となり、子供達は『勉強なんかしたって金儲けにつながらない』から、先進国中最も勉強せず、最も本を読まない、という惨状になりました。・・・」

そこで筆者は、「日本よ、国家の品格を取り戻せ」と説きます。自由、平等、市場原理主義といった教義では、人間を本当に幸せにすることは出来ない。平等な競争が貧富の差という不平等を生み、結果の不平等が、こんどは機会の不平等を生んでいる。現代を荒廃に追い込んでいる自由と平等より、日本人固有の「情緒や形」の方が上位にあることを世界に示さなければならないというのです。美しい情緒や形を身に付けることで国家の品格は保たれる。そして美しい情緒や形を身に付けるためには、武士道精神を復活するべきだと説きます。武士道精神には人間にとっての座標軸である行動基準とか判断基準となる精神の形、すなわち徳徳が示されている。もののあわれなどの美しい情緒と武士道精神から来る慈愛、誠実、忍耐、惻隱、名誉、卑怯を憎む心などの形を日本人一人ひとりが身につけることができれば、それが国家の品格となる。それを出来るのは日本人しかなく、世界はそれに敬意を払うであろうと説きます。この本が何週間もベストセラーになっていたことには、日本もまだまだ捨てたものではないと多少救われる思いがしました。

ところで、先ほどから話題の「その人」は、その後営業から離れて地方の工場に転勤となり、そこでロータリークラブへ入会し異業種の方々と懇親を深めているそうです。